

第 12 回 (12/24) キャリア形成とグローバリズム

1. BBS 投稿から

「…苦しみや不安があっても諦めずに立ち向かい乗り越えた人の方が幸福を改めて感じるができると思う。」

「幸福とは、困難を乗り越えた先に待っているものだと思う。困難を乗り越えないで、得られたものは幸福ではないのではないかと私は、思う。」

「幸福の条件は 困難に直面すること だと思う。困難から抜け出したという気持ち が幸福に繋がると考える。」

「困難なことに直面した時、その現実から逃げることは簡単であるが得られることは少ないと思う。しかし、その困難なことに挑戦すればすぐに結果は出ずとも後にやって良かったと思うのではないかと。そしてそこで、あの時挑戦して良かったなと幸福だと思える瞬間がくる と思った。」

「嫌なことから逃げても、それは結局“後回し”になっているだけなので、逃れることはできないと思う。でも私の場合は、“これを乗り越えればライブがある” “これが終われば友達と遊べる” 等と、自分にとっての幸福を目標にすれば嫌なことも頑張れるタイプなので、困難を乗り越えた方が幸福がより幸福に感じられるんじゃないかなと思う。」

「ネガティブなものを受け入れる経験をしたことがある人 というのは、それを受け入れることができる強さ を持っている人だからこそ幸福になれるのではないかと思った。また、自己中心的且つ自由奔放に生きているような人は、嫌なことからただ逃げ回ってしまう弱い人なんだろうなと思った。だからいつまでたっても嫌なことが付きまとして幸福にはなれないのだと思う。」

「…今の私が幸福だと思う条件は 誰かに必要とされてることを感じる こと だなと思った。」

「…幸福は不幸があるから、感じられるのだと思う。不幸がなければ、そもそも幸福は存在しない。また幸福過ぎると不安になることがある。そのため幸福と不幸にもバランスが必要。どちらもあるから、人は幸せをより強く感じられる。」

「人は 不幸を数えるクセ があるのかもしれませんが。誰にでも幸せもあれば不幸もあります。「幸せはたくさんある」というのが私の基本的な考え方です。」

「「幸福」は自分が 満足 している時に感じるができる。幸福は おいしいものを食べられた事 で感じることも出来るし、長い人生の選択で幸福を感じている 期間 などで、度合いが異なる場合がある。しかし、人間は幸福を得てしまうとより強い幸福をその場で求めてしまうので、本当の幸福は、「あの時幸せだったかな」と思い出を 振り返る時 に幸福と認識できる瞬間だと思う。」

「「幸福」とは、不幸を知り、今の状況と比較して、恵まれているなどと感じたものが幸福になるのだと思う。「不幸から逃げ回っている限り、幸福にはなれない」という意見もあるが、小さなことであれば、気分転換などで逃げ るという方法も幸福のための一つ だと思う。」

「幸福の条件は、人によってそれぞれだと思う。すぐ近くの幸せを優先したとしても、きっと困難なことはあるし、幸福になるには困難なことは避けられない。だからといってすぐ近くの幸せを優先しても別に悪くはないと思う。」

「目の前にある不幸から逃げても、また新たな不幸は後々抱えることになると思う。よって目先の欲を取って生きることはそんなに悪い事とは思えない。」

「人が何かに追い込まれたときにそれを解決してくれる人や方法に出会い助けを求めることは「逃げ」であるのか？冷静さを欠いている状態であるのは確かだが、それはその状態の中でもその時の最善を考えた上での「選択」をしたということになるのではないだろうか。わたしはその選択を「逃げ」だとは思わない。「今したいこと」に従って生きると、長期的な幸せを得られることはないという考えに関しても共感できない。いくら努力、我慢をしたとしても、その先に確実に自分自身が望んでいた幸せがあるのかはわからない。なら、毎日小さな幸せのためにその時その時を必死になって生きるのもいいのではないだろうかと思う…。」

「不安に駆られた時に逃げ道として目の前の幸せに飛びつくことは、結果的に不幸になっても飛びついた瞬間は幸せである。長期的な幸せのために努力して最後に幸せになることは、理想ではあるが「今」を幸せに生きることはできないと感じた。未来のために今、我慢する人生は幸せなのか疑問に思った。」

「すごく幸せな状態であると多少不幸なことも気にならないが、それでも 幸せに慣れてきて不幸を感じるようになる。幸せであるから不幸が目立ち、不幸であるから幸せが目立つ。人は「幸せを感じやすい人」と「不幸を感じやすい人」である程度分かれていると思う。…「今したいことに従って生きると～」について、“今”は生きていく限りずっと続いていかなものであり、長期的に見てもその未来を生きている人は“今”を生きているわけで、生きている間 ずっと「今したいこと」に従って生きていけばずっと幸せ？なのではないかと、ふと思った。」

「幸福の条件は挙げられるものではないと思う。その時によって変わる普遍的〔流動的？〕なものだからこれがあれば幸せというのは挙げられない。」

「そもそも今の時代、「幸せ」という概念を意識しすぎているのではないだろうか。何故このような世の中になったのかはわからないけど、平和になって生き方も多様化し、科学や技術も発達し、余計生きづらい社会になっているということが考えられると思う。」

「自分が幸福だと思って他の人はそれを幸福だと思わない場合もある、またその逆もある。幸福とを感じる瞬間は人それぞれだと思う。」

「人によって幸福は違うし、その人がこれが幸福だと感じているなら第三者は何も口出しできないと思う。たとえそれが少しズレていても心の拠り所になっている以上、幸福である事には変わりはないのかなと思う。」

「幸福の条件は、「自分は幸福である」と思うことではないだろうか。他人から見れば幸福な状態であっても、自分がそれを幸福だと思えなければそれは幸福だとは言えないのである。つまり、自分の置かれた環境や状況などの良し悪しは関係なく、自分がそれを幸福であると思うか思わないかで決まると考える。」

「「幸福」は自分が決めるものであるから、自分が満足して幸せだと思うのならそれで良いと思う。不幸から逃げ回っている現状が幸福とを感じるのならそれで良いし、目の前のことを後回しにして楽して生きたいのならそれもその人の幸福の1つである…。」

ほか多数

過去の投稿から

「強い不安や痛み、極度の退屈の中にいるとそこから抜け出したいという気持ちがあるというのが話し合いの中で出てきて、すごく分かるなと思いました。私自身にも同じことが何回もあり、抜け出したいという気持ちがあっ

たが、その不安の中にもこれから生きていく中での必要な要素が含まれているのではないかと思います。」

「幸せとは何かについて、…あれがしたいこれがしたいの欲求が満たされれば、それが幸せなことだと思ひ、そういう些細なことに幸せだと感じられたら私はそれでいいと思ひます。」

「幸せか不幸かを決めるのは自分だと思ひ。だが、分かっているも他人と比べてしまうのが人間。比べないことは不可能に近いと思ひ。大きな幸せを求めて生きている人と比べて自分が不幸だと思ひよりも、小さな幸せを噛み締めて生きている人と同等に生きる方が私は幸せなのではないかと思ひた。」

「…そもそも、幸せとは“今”感じるものなのか、それとも“振り返った時”感じるものなのか。ここにおいても、幸福に対する価値観が関連していると推測します。だからこそ長期的見通しが優位か、瞬間的感覚が優位か分かるのではないのでしょうか。」

「…幸せは 他人と比べるのではなく、自分の過去の経験と比べて、幸せを感じるのだと思ひ。」

「…幸福は、失った後でないと気付かないのではないかと思ひ。」

「…幸せとは自分の価値観の中か他人との比較で生まれる、もしくは自覚できるものなのでお金持ちだからといって一概に幸せとは言えない。ただお金持ちの当たり前は私たちににとっての幸せであることが多いためお金持ちを羨ましいと感じ誰もがお金持ちになりたいと考えるのだ。わたしにとって幸福とは自分で考えられる望みを叶えることで、幸福の条件は幸福とは何か考えられること、それを叶える術を身につけていることだ。」 **名言！**

2. 本日の資料について補足

日本企業の伝統的な雇用システム

3. 論点整理

- 若いうちに自己責任で〔自分に〕付加価値をつけ、自分にしかできない仕事をやっていないと、“代替可能な（使い捨てられる）労働者”になってしまう…
- 若者にワークライフバランスなんて知らない（それぐらい…、若いうちに自分磨きが必要）
- もはや多くの企業は社員個人の面倒を見てはくれない、人を成長させる役割を持ってない
- 自分が就職する会社の成功だけにベットしてキャリアを委ねることができなくなっている

- 「安定していればいい」
- 「正社員でいられればそれでいい」
- 「一生安心して働ける会社を教えてください」
- 「どれだけ休みがあるんですか？」「ワークライフバランスが充実していますか？」



- 高次の欲求を持つ人
- もっと組織の中で認められたい、つまりは出世したいという欲求（があるような人）
- 会社の仕事を通じて、もっと実現したいビジョンがあるような人

参考）ユニクロ “ブラック企業” 論（城繁幸氏と考える「日本に依存しないキャリア」（上））

城：たとえば今、ユニクロが一部ですごくたたかれています。ユニクロはブラック企業（編集部注：一般的に、労働環境が悪く、若者を使い捨てる企業を意味する）だと言う人もいるんだけど、僕はブラックではないと思っている。ユニクロはたぶんグローバル企業なんです。グローバル企業は、ユニクロに限らず、どこもハードに働かされるんですよ。社員が責任取らなくてよくて、高度成長期にできた法律を全部守ってもらえて、おまけにマイホーム買えるくらいの給料に自動的に上がっていくような会社は、たぶん下請けと外注で相当泣いてる奴がいると思う（笑）。そっちの方が本当のブラックだと思いますよ。

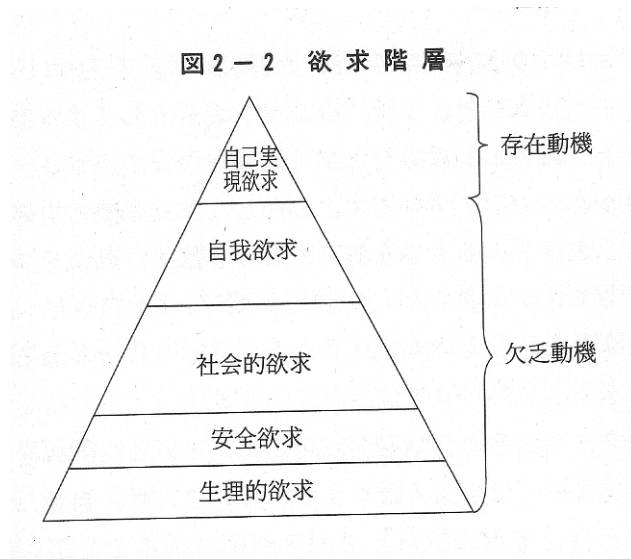
ムーギー：というか、資本主義である以上、そうならざるを得ないですよ。つまり、資本のリターンを高めるためには、いい商品を安い価格で提供して、消費者を満足させるしかない。そのためには、労働者は限界まで絞られることになってしまう。

〔中略〕この文脈で、貧富の差を拡大した象徴的存在のようにユニクロが誤解されてしまうことが多いです。ユニクロがなかった時代は、京都の片田舎でも、衣服は近所の小さいパパママショップで買っていたわけです。ちょっと高かったり、品質が悪かったりしても、ほかに行くところないからそこで買うしかないわけですよ。でも、ユニクロが全国にできちゃうと、そういうパパママショップが全部マーケットから駆逐されてしまう。それは、安くていいものが気軽に買えるのだから、消費者にとってはありがたいですよ。ただ、マーケットが非効率なおかげで食ってきたパパママショップの人たちは、先祖代々50年くらい衣服を売ってきたのに、仕事がなくなってしまう。

〔中略〕ただしこれは、ユニクロがなければ市場を開放したときに外国のリテールチェーンに同じことをされるだけなので、世界のアパレル市場に新たなスタンダードを打ち立て、ジャパンプランドとして活躍しているユニクロは、仕事を失う人が一部いても、他方、大量の雇用機会を若者に提供してくれているので、全体的には日本にとってありがたい存在なのは間違いないと思いますけど。海外にも積極に出て行って、日本の若者にグローバルに働く機会も提供してくれていますし。

城：ユニクロがブラックと言っている人たちに対して、いつも疑問に思うんだけど、彼らは突き詰めると、「使い捨てられる」ということを問題視するわけです。でも、労働者って全部使い捨てですよ。これは、政治家から、首相から、銀行員から、メーカーまで、みんなそうですよ。すべての労働者には2種類しかいない。使い捨てられることを分かっている労働者と、使い捨てられることに気付いていない労働者。大企業で幸せな定年を迎えられたオジサンも、僕に言わせれば、使い捨てられたことに気付いていないだけ。ただね、これは労働者の側から見て凄いメリットでもある。会社もやっぱり使い捨てってことです。なら個人の側もドライに、いかに成長できるかを考えればいい。

参考) マズローの欲求 5 段階説



e.g.

生理的欲求： 食べたい、眠りたい…

安全欲求： 安全快適に落ち着いて暮らしたい

社会的欲求： 他者と関わりをもちたい、愛着をもたれたい

自我欲求： 自尊心。ひとに認めてもらいたい

4. 検討・考察

意見交換のタスク

5. 参考文献

東洋経済 ONLINE「若者にワークライフバランスなんていない」 (<http://toyokeizai.net/articles/-/12808?page=5>, 2013/02/11)

東洋経済 ONLINE「稼げないあなたに、会社はもう投資しない」 (<http://toyokeizai.net/articles/-/12834>, 2013/02/11)

城繁幸、2006、『若者はなぜ3年で辞めるのか?』光文社新書

A.H.マズロー、小口忠彦訳、1987、『人間性の心理学』産能大学出版部

6. 次回の予告

1月7日 社会保障とコスト

以 上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9021.teacup.com/tenomoto4/bbs>